



久保八幡神社

亀山だより

発行：亀山八幡宮総代会

令和6年 夏号

尾道市西久保町2-1

今年の夏も暑くなりそうですが、地域の皆様におかれましては、ご清栄のこととお慶び申し上げます。コロナ禍もアフターコロナに向かい、神社のお祭りにもぎやかさを取り戻しつつあるこのごろですが、行事によってはコロナ禍の中断が行事の継続に深刻な溝を生んでいます。そこで、次世代の方々も含めてより神社を身近に感じ、親しんでいただきたいと「亀山だより」を発行することにいたしました。不定期ですが、年に1度か2度、亀山八幡宮（皆様に親しんでいただいている名称は久保八幡神社）の行事や関連する神社の様子などをお伝えできればと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

亀山八幡宮と関連の行事

元旦祭 1月1日 初詣（3が日など）

お火焚き神事 1月第3日曜日

（吉和八幡神社と交互実施、亀山は奇数年）

とんど1月14日 節分祭 2月3日（令和7年は2月2日）

桃の節句祭 4月（旧暦3月3日） 端午の節句祭 5月5日

夏越しの大祓 6月30日 七夕祭 8月（旧暦7月7日）

秋季大祭（秋祭）わんぱく相撲 10月（12～19日の間の土・日）

年越しの大祓 12月31日（大晦日23時）

山王祭（山脇神社） 5月第3土曜日

祇園祭（八坂神社） 6月最終金曜・土曜日

水祭り（熊野神社） 7月下旬の土曜日（調整変更あり）

さんで、時系列で言うと明神さんのお宮へ明治になって祇園さんが合祀されました。地元的には明神さんの呼称の方が通っているのはその為です。

何れも氏神様とは別のお宮になりますが、亀山八幡宮の宮司さんが代々兼務をされておられます。兼務は山王さんの山脇神社もそうですが、氏神様の見守る氏子区域内にある神職不在の小宮を、氏神社の宮司さんが兼務される例は一般的に見る光景です。

ただ、明神さんについては、神職不在の小宮というだけではないものがそこにあるようです。

江戸時代の尾道町内を描いた絵図の中で、明神さん（厳島大明神と記載）の境内位置に「八幡御旅所」とあり、厳島神社境内が八幡さんの御旅所、即ち八幡さんの神輿が安置される場所として定められているのです。その由縁について伝わり聞くものではありませんが、南北で向き合うような配置も含め、両者の交わり、神縁が秘められているのかもしれない。（文：林良司）

八幡さんと明神さん

八幡さんと向き合うように、久保新開に鎮座するのが明神さんと呼ばれる厳島神社で、鳥居の扁額には、並んで八坂神社の社号も見えます。こちらは三体神輿・三体廻しでその名を知られる祇園

祇園祭の三体廻し 尾道市無形民俗文化財



祇園祭の締めくくりには、渡し場通りと海岸通りの交差点で、クライマックスの「三体廻し」が勇壮に行われます。

一つ巴、二つ巴、三つ巴の3体の神輿は、それぞれの地域を代表して担がれ、その威勢のよさを競い合います。幟の周りを駆ける3体の神輿。夜のとばりも下りる頃、ライトアップされた会場は担ぎ手の体から立ち上る湯気が渦巻き、早まる太鼓のリズムにムンムンとした熱気に包まれます。

今年（6月29日）は三体廻しが尾道市無形民俗文化財に指定されて初めての三体廻し。担ぎ手の心意気もさらに盛り上がることと思われます。勇壮な祇園祭の三体廻しをぜひ、ご観覧ください。

亀山八幡宮ゆかりの神々

高御倉神社

石工の神様として広く信仰を集めています。ご祭神は石作大連公建眞利根命（イシヅクリオオムラジノキミタテマリネノミコト）。日葉酢媛命のために石棺を献上したため、石作大連公を賜り石工の神様とお祀りされました。享保16（1731）年から鎮座。例祭



は5月24日。当社の石の鳥居と扁額のほか、境内には軍配灯籠、手水舎の手水鉢、狛犬など石工の技術の高さを誇る石造りが沢山あります。

松尾神社

お酒の神様。お祀りする大山咋神は農耕を司り醸造の原料を生産する神、酒彌豆男神・酒彌豆女神は酒造りの杜氏の祖神で醸造、発酵業の守護神であるとともに酒類などの販売業者の守り神でもあります。



酒造が盛んなころの信仰は厚く、境内社では唯一拝殿も設けられています。近年、発酵、地ビール製造が盛り上がり、4月2日の例祭も生製品の奉納と神事が盛り上がりを見せています。

山脇神社

お猿が狛犬の代わりの神社。拝殿屋根の四隅にもお猿が座す。場所は亀山の境内とは離れた東久保町。



ご祭神大山津美命（オオヤマヅミノミコト）は万物の成長発展、産業万般の生成化生などを守護しています。猿は同社の神使で石造りのお猿は弘化2年に奉獻されたもの。例祭は山王さんと言われ、尾道の夏祭りの幕開けとして親しまれ、この祭りから浴衣を着る習わしがあります。

二の丸稲荷神社

踏切から石段に向かうと左手に赤い鳥居の二の丸稲荷神社。春には囲む桜のピンクと赤のコントラストも鮮やかにお狐さんが参拝者を迎えます。ご祭神は宇迦之御魂神（ウカノミタマノカミ）で、農業・商業の神様。江戸後期の大横綱陣幕久五郎と妻おゆきの信



仰も篤く、通称はおゆき神社。夫婦円満・恋愛成就のご神徳もある。例祭は7月土用入り後の初の日曜日。

令和御大典祈念 参集殿修理 ご奉賛のお願い



参集殿は境内の右手の建物。昭和6年建築の構えは神社らしい趣を備え、神社の世話会など地域の方々の参集場所として使われているほか、神社行事の準備には無くてはならない作業スペースとなっております。新年の本殿用しめ縄も11月ごろからここで藁が準備され、尾道市無形民俗文化財に指定された祇園祭の三体廻しや当社秋祭りの神輿にとっては大切な担ぎ手の参集、着替えの場所でもございます。この参集殿がいま老朽化により屋根瓦の崩落危機を迎えております。雨漏りはバケツで凌いで参りましたが、調査の結果、梁、柱を含めた大掛かりな改修工事が求められています。そこで奉賛会を立ち上げ、修理費のご寄付を広くお願いすることとした次第です。ぜひともこの難局をご理解いただき、持続可能な神社運営のため、皆さまのご寄付を伏してお願い致します。何卒、何卒、よろしくごお願い申し上げます。（総代会、奉賛会一同）